

第21回群馬地域リハ研究会のお知らせ

【日時】 令和6年2月3日(土) 14:00~15:40 (会場受付開始13:30)

【開催方法】 ハイブリット開催

会場 群馬大学臨床中講堂(前橋市昭和町3-39-22) & オンライン

【参加費】 無料

【演題名】 地域リハビリテーションと災害支援について

【講師】 千葉県千葉リハビリテーションセンター

/地域支援センターセンター長(兼)地域リハ推進部 部長 田中康之 先生

【講演内容】 群馬県は比較的災害が少ない県とされておりますが、それでも過去に台風の被害を経験しております。一度災害が発生すると一般の生活に大きな支障を来すとともに、医療機関や介護施設などでは治療や介護が困難となってきます。リハビリテーションの領域では、各種のリハビリテーション関連職種で構成される一般社団法人日本災害リハビリテーション支援協会(JRAT: Japan Disaster Rehabilitation Assistance Team)が組織され、災害の支援や受援を行っています。群馬県地域リハビリテーション支援センターでは、群馬県の要望もあり、地域リハビリテーションの観点から災害支援を検討しているところです。

今後は、群馬 JRAT とともに群馬県の災害支援(受援)体制の構築をしなければならぬと考えております。このようなことから、地域リハビリテーション、JRAT、PT・OT・ST、地方行政の全てに渡って関わっておられる千葉県千葉リハビリテーションセンターの理学療法士の田中康之氏をお招きして、千葉県の地域リハビリテーション支援センターや広域支援センターの実状や災害支援との関わり、千葉 JRAT との関係、さらには千葉県との災害協定についてお話しいただく予定です。

【単位認定】 日本理学療法士協会:登録理学療法士(更新)区分2災害医療1.5ポイント

日本作業療法士協会:基礎研修自由選択1ポイント

日本言語聴覚士協会:生涯学習プログラム参加1ポイント

【お申込】 群馬県地域リハビリテーション支援センターHP

→申込フォーム <https://www.grsc.biz/entry.php> より、お申込み下さい。

※TEL/FAX/e-mail でのお申込みは承っておりません。

【詳細】 群馬県地域リハビリテーション支援センターHP <https://www.grsc.biz/>

→お知らせ一覧 →第21回群馬地域リハ研究会 2024年2月3日開催

<https://www.grsc.biz/file/t59.pdf> をご覧ください。

【駐車場】 群馬大学駐車場をご利用される場合の駐車料金は実費をお支払いください。

【お問合せ】 群馬県地域リハビリテーション支援センター 群馬地域リハ研究会事務局

TEL/FAX 027-220-8966

e-mail tsunoday@gunma-u.ac.jp



多野藤岡地域リハビリ研究会の紹介

多野藤岡地域リハビリ研究会事務局 関根圭介

地域リハビリテーション広域支援センターが県内に 11 カ所ありますが、当会は広域という本来の地域に根ざした医療・福祉・保健・行政有志から組織されている数少ない団体です。2004 年地域リハビリテーション整備推進事業として、県の広域支援センター構想を機に当時の藤岡市保健センターの保健師岩崎氏と公立藤岡総合病院理学療法士浅香氏が中心となり発足に向けて活動開始。当時の吉井中央診療所江原医師を会長、篠塚病院相原医師、日高リハビリテーション病院宇野医師を副会長として発足しました。2005 年当時の構成員 44 名。構成職種はリハ 3 職種の他に医師、歯科医師、看護師、保健師、薬剤師、栄養士、介護福祉士、MSW、介護支援専門員、行政職員、保健所職員と多岐にわたり地域住民の健康増進に情熱のある人材が集まっています。現在は 59 名の委員で構成されています。

【主な活動】

- ・研修会 いきいき介護予防講演会
アセスメント研修会
- ・実地指導 病診間の症例検討会
相談対応
- ・啓発活動 情報誌発行、自宅でできる体操
等の動画作成、DVD 配布
- ・その他事業 行政からの専門職派遣依頼
への人材紹介

対面の研修会や講演会はコロナ前までは順調に開催されておりました。コロナ後は活動の幅が制限された中での介護予防の取り組みとして回覧板を利用した情報発信と DVD 配布を行っています。色々なコンテンツを順次増やしておりご好評を得ております。

【強み】

様々な職種からなる組織にて、企画が多岐にわたり、特に行政職が委員になっていることで担当保健師さんの企画力が豊富です。また、地域で働いている多職種で一つの研修会などを運営するので活動自体が顔つなぎとなっています。毎年、1 月に行う中間報告会は新年会も兼ねており皆が楽しみにしているようです。コロナ禍ではお休みになっていましたが・・・。

地域リハ研 Vol.5
いきいき通信

多野藤岡地域リハビリ研究会（地域リハ研）は、地域の住民に対して健康で自立した生活が出来るよう支える、様々な職種からなる組織です。

DVD 第 2 弾 完成！

・ご好評いただき、いままでに数百枚配布させていただいた、【藤岡市元気がいきチャンネル】の DVD 第 2 弾が完成しました！

・今回の内容は
コチャー

- おうちと一緒に脳トレ
- 意外と知らない認知症のこと
- 認知症予防
- 呼吸運動について
- 換気を予防するリハビリテーション
- 食事に注目したリハビリテーション栄養
- 運動に注目したリハビリテーション栄養

→裏面で、「食事に注目したリハビリテーション栄養」をご紹介します！

インターネットの環境がない方、苦手な方
（準備のある方、得意な方も大歓迎！）
無料で DVD を郵送します！
ご住所・氏名・年齢・DVD 希望と書いて
ハガキ・メール・お電話で、ご連絡ください！

DVD プレゼント

申し込み先
多野藤岡地域リハビリ研究会
〒375-8503
群馬県藤岡市中華街 813 番地 1
公立藤岡総合病院リハビリ室 小林・関根
TEL: 0274-22-3511 (リハビリ室)
Mail: mriha@fujika-hospital.jp

第 1 弾も引続きプレゼント可能です。ご希望の方は、そのようにお伝えください。
内容は、「骨・目のトレーニング」「膝のストレッチ・トレーニング」「腰痛のトレーニング」です。

回覧板情報誌

令和 4 年度オンライン通いの場体験実証事業報告会

群馬県地域リハビリテーション支援センター長 山路雄彦

令和 4 年度に群馬県で実施した「オンライン通いの場体験実証事業」の報告会が、令和 5 年 8 月 9 日（水）に遠隔（ZOOM）で開催されました。群馬県地域リハビリテーション支援センターからは、センター

長の山路と宮寺亮輔氏が出席しました。報告会の内容は、1. 実証事業の概要、2. 委託業者からの報告、3. モデル市町村からの報告（①大泉町、②伊勢崎市）でした。この「オンライン通いの場実証事業」は、スマホ教室と介護予防教室を週1回3ヶ月で実施するものです。この事業は、館林地域リハビリテーション広域支援センターと伊勢崎地域リハビリテーション広域支援センターにも担当して頂きました。「オンライン通いの場」はコロナ禍の際や過疎地での通いの場の展開に有益であると考えられます。

令和5年度第1回地域リハビリテーション広域支援センター情報交換会

群馬県地域リハビリテーション支援センター長 山路雄彦

令和5年度第1回地域リハビリテーション広域支援センター情報交換会を令和5年9月28日（木）17:00から遠隔（ZOOM）にて開催しました。昨年度までは、年1回としておりましたが、今年度からは年2回開催する予定です。この情報交換会の目的は、各広域支援センターの日頃の諸活動についての実践や課題などを報告・協議・検討することにあります。自施設以外の取組などを参考にして、地域リハビリテーション支援の活動を広げていただきたいと考えております。情報交換会の内容は、1. 渋川地域リハビリテーション広域支援センターの活動報告、2. 群馬県地域リハビリテーション支援センターからの報告、3. 要望のあった協議項目、(1) 予算、決算の仕訳、(2) フレイルチェック、評価方法と分析方法について、など、4. 群馬県から連絡などでした。

第2回は2月、3月に開催する予定です。

「喉元過ぎれば熱さを忘れる」とならないために・・・

群馬医療福祉大学リハビリテーション学部理学療法専攻 村山明彦

約3年ぶりにニュースレターを執筆する機会をいただきました。前回（2020年12月）執筆したのは、新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19）の感染者数が急速に増加している時期でした。そして、群馬県下のサロンや通いの場は、活動中止または縮小している状況でした。この間、群馬県地域リハビリテーション支援センター（以下、支援センター）では、ホームページで「オンライン通いの場」の動画を公開するなど、遠隔や非対面での介護予防活動の支援を行ってきました。私は、支援センターの一員として「講話：フレイルとは？」という動画の作成に携わりました。同様に、依頼いただいた市町村主催の介護予防関連の講演会なども、対面でなくWEBで実施することを余儀なくされました。自宅に居ながら遠方の方々とも繋がりができることは便利な一方、対面でお会いできない“もどかしさ”を抱えていたことを憶えています。

時は流れて2023年5月より、COVID-19は5類感染症に移行して、地域での介護予防活動が再開されるようになりました。私も毎月のように群馬県各地の介護予防関連の講演会に伺っています。ところで、皆さまはCOVID-19感染拡大前と比較して、活動量や体力が低下していませんか？また、COVID-19の感染予防のために、一度遠ざかった人たちとの対面での繋がりは戻っていますか？さらに、今回のCOVID-19で感じた課題や教訓を忘れていませんか？私は自信をもって「はい」とは言えないです・・・だからこそ、『喉元過ぎれば熱さを忘れる（大変だった経験も、過ぎ去ってしまえばその大変さを忘れてしまう）』とならないための対策を、力を合わせて検討する時期だと考えています。これを裏付けるように、世界保健機関（WHO）は、将来の流行やパンデミックを引き起こす可能性のある病原体（Disease X）を想定することを含めた知見の集積が必要だと言及しています。

個人的には、COVID - 19 感染拡大下で培った動画配信や遠隔での介護予防活動などの技術を、ブラッシュアップしておく必要性を感じています。特に、対象者の身体機能・認知機能に幅を持たせた体操コンテンツの作成や、対面でない“もどかしさ”を考慮した準備が有用であると考えます。このためには、リハビリテーション専門職だけでなく、実際に COVID - 19 感染拡大下での介護予防活動を経験した地域の方々の声の集約も求められます。このような意見交換の場が、早急かつ定期的に設けられることを期待します。

余談ですが、『喉元過ぎれば熱さを忘れる』には、『大変だったときに他者から受けた恩義を、すぐに忘れてしまう』という解釈もあるそうです。言葉の意味を調べたことで、私がこのような原稿を書けるのも、これまでに助けてくれた人たちのおかげであると、再認識するよい機会にもなりました。ご恩は決して忘れません！最後まで読んでくださった方、ありがとうございました！

「第 26 回日本訪問リハビリテーション協会学術大会 in 群馬 2025」開催について

介護老人保健施設うらく 理学療法士 新谷 和文

令和 7 年 6 月 7、8 日(土、日) 高崎市の G メッセで上記学術大会を開催致します。

大会長は不肖私新谷が務めさせて頂き、大会参加予定人数は 1000 名を予定しています。群馬でこれだけ大きなリハ関連の全国学会開催は久しぶりかと思えます。

大会開催にあたり、群馬県の PT/OT/ST の 3 士会さんに多大なご協力を頂くことが出来、副大会長を群馬県の PT/OT/ST の 3 士会の士会長さんをお願いすることが出来ました。また、大会の実行部隊として群馬県 POS 連絡協議会が行うことが決まり、群馬県 POS 連絡協議会会長の山路先生を大会顧問としてお迎えし万全の体制をとる事が出来ました。

本大会開催にあたり、委員さんと検討を重ね大会テーマを「地域創生」～訪問リハビリテーションの立場から誰もが住みやすい街を～としました。訪問リハビリテーションを行う上で、利用者様の希望やより良い生活を考える上で、「地域と繋がり街へ出かけられる」事が大切という委員さん全員の想いを共有し本大会テーマと致しました。

現在、準備を進めています。大会の細かな企画の内容などこれからです。魅力ある大会に向け委員全員で頑張っています。これから準備が本格化します。皆様のお力が必要です。是非ともご協力をお願いします。また学術大会へ参加および演題発表等、今からご準備をお願い致します。多くの方のご参加を心よりお待ちしております。

編集デスク

山路雄彦

山上徹也

角田祐子

発行

群馬県地域リハビリテーション支援センター

連絡先

群馬大学大学院保健学研究科内

Tel/Fax:027-220-8966

tsunoday@gunma-u.ac.jp

群馬県地域リハビリテーション支援センター事務局便り

(2023 年 4 月～2023 年 12 月)

- 8 月 2 日 令和 4 年度群馬県地域リハビリテーション事業報告書作成/発送
- 8 月 9 日 令和 4 年度オンライン通いの場体験実証事業報告会出席
- 9 月 28 日 オンライン「第 1 回群馬県地域リハビリテーション広域支援センター情報交換会」
- 10 月 26 日 オンライン「都道府県リハ支援センター会議」出席
- 12 月 15 日 ニュースレター 41 号発行